昭和天皇のゆかりの地を訪ねて

北海道・昭和新山

噴火による生成過程をご質問

今年七月に開催された北海道洞爺湖サミットの余韻が残る壮瞥町（そうべつちょう）と洞爺湖町にまたがる有珠山の峰々、特に昭和新山について今回はご紹介しましょう。この昭和新山を昭和天皇は昭和二十九（一九五四）年八月、洞爺湖湖畔から望見されています。当時、米国の施政権下にあった沖縄を除く最後の「戦後の地方巡幸」の途次でしたが、七日に青函連絡船の洞爺丸で津軽海峡を渡海されてから、稚内方面を除いてほぼ全道を回られ、札幌では第九回国民体育大会にご臨席、二十三日に千歳から初めて飛行機にご搭乗になって帰京されました。ところが一カ月後の九月二十六日に洞爺丸が台風で遭難、一千人以上の人が亡くなり、陛下は悲しみの御製を二首詠まれています。来月は黄葉紅葉の季節、足跡をたどられ先人をしのび感動を新たにされたらいかがでしょう。

（大石　昭爾）

昭和天皇・香淳皇后は大沼国定公園内の山水館に八日はご宿泊、翌九日はお召列車で森、八雲、長万部の国鉄各駅で奉迎を受けられ、十二時三十二分に虻田駅（現・洞爺駅）にお着きになりました。

ここでも奉迎を受けられたあと、御料車で青い洞爺湖を俯瞰されながら壮瞥村（現・壮瞥町）の道立昭和新山資料展示館にご到着。

最初は湯浅村長から昭和新山のご説明を受けられていましたが、陛下は畑地に火山噴火で忽然と現れた標高四〇六（現三九八）㍍の赤い山に興味を持たれてご質問が多岐にわたったため、山を長年観察してきた三松正夫氏も加わってご説明したそうです。

ご満足された陛下は御料車にもどられ、午後一時三十二分にご出発、湖岸の景色を眺められ、滝の上から徐行されて村の中心部に入られ、村民の奉迎を受けられました。

その後、御料車は国鉄胆振線の壮瞥駅前（廃線廃駅）を一時五十分に通過されて伊達町（現・伊達市）に向かわれました【出典「壮瞥町史」】。

◇

道立昭和新山資料展示館でご覧になる両陛下。左から3人目が三松正夫氏

両陛下のご滞在は十五分ぐらいとのことでした【昭和五十一年十一月十一日付「北海タイムス」】。

しかし、三松氏にとっては日本学士院での晴れの発表や第一回北海道文化賞「科学部門」文化奨励賞受賞の際でも味わうことができなかった達成感を感じた密度の濃い時間だったのではないでしょうか。

思い返せば、昭和十八（一九四三）年十二月二十八日の夕刻に頻発地震を感知、三十三年前の明治四十三（一九一〇）年に遭遇した「有珠山の火山活動（明治新山誕生）」の体験から新しい活動と推測、観察活動を開始したのがきっかけでした。

三松氏は壮瞥郵便局の局長で五十五歳、正規に火山学を学んだわけではありませんが、火山学者から受けた指導を生かしてスケッチなどで変化する噴火活動を克明に記録しました。

当時は戦時中でしたので物不足なうえ、戦争以外に関心を向ける人は少なく奇異な目で見られましたが、膨せず「記録は必ず後世に役立つ」と信じて行動されました。

有珠山の火山活動は昭和新山を形成して昭和二十（一九四五）年九月二十日に終息しましたが、二十一年四月三十日までに三松氏は昭和新山誕生で畑などを失った農民らの救済と新山の保護を目的として十五万坪の民有地を買い取りました。この時もいぶかる声があったといいます。

◇

その後、定点観測スケッチを集大成して昭和新山生成状況図を完成、東北大学の田中館秀三教授の斡旋により昭和二十三年のオスロ万国火山会議に提出されると、「ミマツダイヤグラム」と高く評価されたのでした。

昭和天皇がご覧になった「道立昭和新山資料展示館」は昭和二十七年九月に洞爺湖の西湖畔（壮瞥村の旧字名、現・壮瞥温泉）に建設されました。

当時は洞爺湖運輸株式会社の遊覧船で昭和新山登山口桟橋に着き、昭和新山まで山道を歩いていたのです。

同資料展示館は昭和四十二（一九六七）年十二月に壮瞥町に移管され昭和五十九（一九八四）年三月二十九日に閉館されました。交通事情の変化などが理由です。

一方、昭和四十四年六月一日に三松正夫氏の縁者である三朗氏が昭和新山の麓・新山地区にあった㈱昭和新山植物園の一室に「昭和新山資料館」を開設しましたが昭和六十一（一九八六）年十一月三十日に閉館。これより少し離れた場所に「三松正夫記念館（昭和新山資料館）」を昭和六十三年四月二十三日に開設、現在にいたっています。

三松三朗館長は「天覧に供された正夫のスケッチやブリキ製の昭和新山模型も展示しています」と説明。昭和五十二（一九七七）年十二月八日に三松正夫氏が逝去されてからすでに三十年が経っていますのに、いまだに遺品や精神が継承されていることは全国の三松正夫ファンにとってはうれしい限りでしょう。

記念館を出て徒歩約五分の有珠山ロープウェイに向かう途中に駐車場があり、ここから昭和新山を改めて見上げますと、雨中のせいか、山肌から上がる白煙は晴天続きのときより多そうでした。

そばには昭和新山生成五十年記念事業で立てられた、測量機をのぞく正夫氏のブロンズ像がありました。

有珠山ロープウェイに山麓駅で乗るとわずか六分で山頂駅に。この間、昭和新山を見下ろし、洞爺湖を望見して絶景を堪能できます。

山頂駅から遊歩道を七分歩けば火口原展望台、昭和新山側を背に眺めると、右手に手前から大有珠、有珠新山、小有珠と並び、噴火湾も望めます。

登山装備をされている方は外輪山遊歩道に進めますが、装備のない方は下山されて壮瞥町内の昭和新山鉄橋遺構公園や新山沼展望公園、１９７７年火山遺構公園、洞爺湖町内の環境省洞爺湖ビジターセンター・洞爺湖町立火山科学館、金毘羅火口災害遺構散策路、西山火山散策路を見学するとよいでしょう。

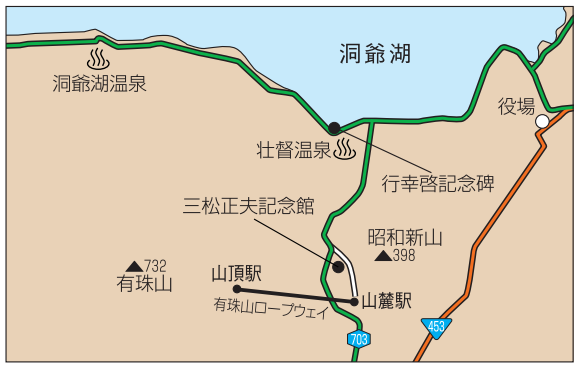
壮瞥町は昭和新山国際雪合戦、横綱北の湖記念館でも有名ですが、今、地球温暖化や原油高騰で人類の歴史は曲がり角に差しかかっていますので、ひと時、火山すなわち地球と向かい合ってもよいのではないでしょうか。

洞爺湖湖畔の行幸啓記念碑。当時の展示館はこの付近に

㊤壮瞥郵便局付近から畑越しに見た有珠山
㊦噴火で畑のなかに形成された昭和新山
（三松正夫記念館提供）

白煙を上げる昭和新山。山頂が赤いのは土壌がマグマの熱と酸化で煉瓦状になったため。三松正夫記念館前の景観で、壮瞥郵便局は新山の向こう側

右に昭和新山、左に洞爺湖。８月20日は雨でしたが晴天下の美しさはさぞや…＝有珠山ロープウェイの山頂駅わきの「洞爺湖展望台」から



三松正夫記念館の正面。屋外展示物は昭和新山！

三松三朗館長

●三松正夫記念館メモ

☆入館料　大人三百円、小中学生二百五十円（団体割引あり）
☆開館時間　8時～17時
☆休館日　4～12月・2月は無休、1月・3月は不定休
☆☎　0142・75・2365（FAX兼用）
夜75・2852
☆アクセス　10月19日まで道南バスの洞爺駅前→洞爺湖温泉（乗り換え）→昭和新山の便があります。詳しくは洞爺営業所（☎0142・75・2351）に